

津田支部の紹介

支会長 大江長夫

文化と言うと非常に難しいことと特定の人だけのものと思われがちですが、そうではないと思います。一言で文化という文字にすぎませんが、中身は広く、深く大きなものであります。反面自分達の身近にあるものです。皆様もご承知の通り例えば、食の文化、衣の文化、住の文化、地域の慣習、行事これも又文化であると思います。このように人それぞれの文化が日常生活の中に溶け込んでいます。

文化協会では、音楽、芸能、生活文化、文学文芸、美術工芸、民俗歴史自然科学の六部門で活動しております。多数の方々の参加をお待ちしております。趣を同じくする仲間と楽しいひとときを過ごし心豊かな生活を営むための一助になればと考えております。



▲京都市美術館へ

一日視察研修

六月二十三日（水）実施
十六年度は、京友禅工房と京展を訪ねてまいりました。

京友禅工房では、手描き友禅と型友禅の工程を見せていただきましたが、それらは優れたデザインを基に引継がれてきた匠の技が美しい友禅染を作り出す。

京展では、美術工芸の制作過程における中央の流れを知る良い機会となりました。

市民文化祭津田まち祭中止

台風二十三号の襲来により、さぬき市内全域において多大な被害が発生しました。この様な状況下では開催不可能と判断し役員会で協議し中止にしました。被災者の皆様にお見舞い申し上げます。今後も元気で頑張ります。

器びん

津田陶芸教室 成谷恵子

「よつおこしなさんした」こんな挨拶から始まる陶芸教室は、大ベテランから一年目の人までこの日を楽しみに集まっています。ひとしぎりの会話がはずみ、いつの間にか轆轤の音だけが聞えるころになると、それ



▲陶芸展示風景

ぞれ無心の芸術家となり、思い通りにゆかない作品に、悩んだり目を細めたりしながら、自分と向き合う大切な時間を過ごします。

素焼き、釉薬の工程後、めつたに経験できない「薪窯」での本焼きが経験できる事は幸運です。薪のパチパチ燃える音、一時も目を離す事なく温度の変化を見守るための共同作業、炉内温度千二百度ともなると炎の色は神秘さを増し例えのない美しさの中へと誘ってくれます。

期待と不安の窯出しの日は、そろって作品の誕生に立ち合いつながり、手に取った器におしく盛られたごちそう、美しく生けられた花などに思いをはせる顔は達成の安堵と喜びがいっぱい。先生は「器の生き方まで思いやるのが陶芸」とおっしゃいます。学ぶことばかりですが次回作に期待と努力を重ねています。

一期一会の色を求めて

草木染教室 渡邊登喜子

生まれ故郷に定住して間もなくの平成六年に声をかけて頂き津田公民館（本館）で草木染教室を開いて十年近くなります。平成十年三月、北山小学校閉校。北山地方館となった事からこの施設を利用して、地域活性化の一助にでもなればと、地元有志の方の御参加を得て、一時中断していた教室を北山で再開し、月二回賑やかな集りを続けています。草木染めの色相は、一期一会の色で、同じ材料を使っても同じ色は染められません。それだけに思わぬ発色に一喜一憂しながら染め続けております。教室は、高齢者が多いのにも拘らず、皆様の制作意欲が旺盛なので、試行錯誤しながら、皆様の納得される草木染めの色を、追求してゆきたいと思っております。



▲草木染の皆さん

彩どり仲間と絵画教室

絵画教室 井藁徳治

「絵を習いたいんですが」「金曜日夜七時に婦人の家迄来て下さい」「私が絵画教室に入会したのは平成八年です。あれから九年がたちました。」「レッスンの勉強をしつかりして下さい」「同じ箇所ばかりぬらんと全体を見て」講師である寺村日出男先生の教えを今も守り月二回の絵画教室で作品作りに励んでおります。それぞれがモチーフを持ち寄りキャンパスに思い思いの感情で絵具のせ重ね色が変化していき自分の世界に入っていく事を楽しんでおります。赤い山黒い山があってもよい、赤い海と黄色い海があってもよい自由な発想で仲間同士で、アドバイスを受けあいながら絵を描いております。絵は誰にでも描く事が出来ます。仲間が増える事を期待して会員一回頑張りたいと思います。



▲絵画展示風景